

第115回勉強会「ジオラボ」のご案内

主催:(公社)地盤工学会九州支部/長崎地盤研究会

共催:長崎県測量設計コンサルタンツ協会 後援:長崎県技術士会

日時:平成30年4月13日(金)14:00~17:30

会場:長崎大学文教キャンパス サイエンス&テクノラボ棟 2F セミナー室2

(長崎市文教町1-14、095-819-2618)

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/access/bunkyo/index.html>

参加費:1,000円(資料代含む)

話題提供:14:00~17:00(①:14:00~15:30/②:15:30~17:00の予定)

①平成29年7月九州北部豪雨による地盤災害

村上 哲 先生(福岡大学工学部 教授)

概要:平成29年7月九州北部において発生した線状降水帯により、過去に例のない長時間かつ集中的な豪雨を記録した。この豪雨により、福岡県朝倉市、東峰村、大分県日田市を中心に斜面崩壊・土石流・がけ崩れなどの土砂災害や洪水災害が発生し、人、住家、社会基盤施設等々に甚大な被害をもたらした。(公社)地盤工学会では、本災害の社会的重要性・緊急性に鑑み、産・学のメンバーからなる調査団(団長:安福規之、九州大学教授)を編成し、「平成29年7月九州北部豪雨地盤災害調査団」を結成した。本講演では、その調査結果の一部を紹介するとともに、今後の豪雨地盤災害に対するレジリエントな地域防災についての課題について講演する。

②九州北部豪雨から考える、これからの気象

~九州北部豪雨は、なぜ起きたのか?温暖化が進むと、このような大雨は起きやすくなるのか?~

古賀 忠直 様(国土交通省 九州地方整備局 長崎河川国道事務所 専門職)

概要:九州北部(福岡、佐賀、長崎、熊本)の大雨は梅雨時期、九州西南部(大分、宮崎、鹿児島)は台風時期の降雨が河川の計画流量を決定している。長崎ではS32諫早豪雨とS57長崎大水害を経験しておりその特徴等を説明し、この梅雨時期の大雨とH24とH29九州北部豪雨について発生要因(線状降水帯、バックビルディング等)を紹介する。併せて、近年、温暖化が進むと大雨や濁水になるということが言われているが、九州北部豪雨での関連について説明する。

長崎地盤研究会ミーティング:17:00~17:30 / 懇親会:18:00~(大学周辺を予定)

※ご参加いただいた皆さまに、建設系CPD協議会(地盤工学会)継続教育参加証もしくは測量系CPD協議会継続教育参加証を発行いたします。

お申込みについて:勉強会へご参加の方は、配布資料の準備のため下記宛先までご連絡いただけると幸いです。
(直接参加も歓迎いたします。)

お申し込み先:長崎大学大学院 工学研究科 システム科学部門 杉本 FAX:095-819-2627 E-mail:s-sugi@nagasaki-u.ac.jp